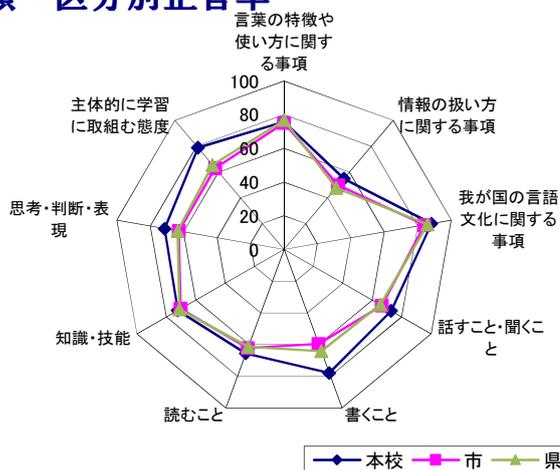


宇都宮市立清原北小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.9	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	54.9	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	88.2	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	72.9	66.5	65.5
	書くこと	77.9	59.6	64.2
	読むこと	65.7	62.2	61.5
観点	知識・技能	72.3	70.2	71.1
	思考・判断・表現	71.4	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	78.8	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市や県の平均と同等であった。 ○第3学年に配当されている漢字を正しく読む問題は100%のものもあり、よくできている。 ●言葉の学習では、主語と述語を正しく理解したり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりする問題は、64.7%と県の平均を下回っていた。	・ローマ字は外国語活動にも関わってくる大切な学習であるため、朝の学習等に取り入れ、定期的に復習していく。また、一人一台端末を使った学習も取り入れ、興味関心を高めるようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市・県の平均をやや上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題は、64.7%と県の平均を大きく上回っていた。 ●国語辞典の使い方の問題の正答率は52.9%と県の平均と同等だった。	・国語辞典や漢和事典を手元に置き、すぐに調べられるようにしたり、付箋を貼って、調べることに意欲付けを図ったりする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市や県の平均と同等であった。 ○漢字のへんやつくりの問題の正答率は88.2%と高く、県の平均と同等であった。	・新出漢字を学ぶ際には、それぞれの部首を確認していくようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市・県の平均を上回っている。 ○相手に伝えるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す問題の正答率は94.1%と県の正答率を大きく上回っている。 ●互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる問題の正答率は、47.1%と県の正答率を下回った。	・話し合うことで出てきた考えの共通点や相違点に着目し比べることができるようになるために、友達の意見を聞き、人によって捉え方に違いがあることや、自分の考えがはじめと比べて変化したり深まったりしたことに気づくようにする。
書くこと	平均正答率は市・県の平均を大きく上回っている。 ○自分の考えを明確にして文章を書く問題や、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く問題の正答率はどちらも88.2%と県の正答率を大きく上回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は県平均を上回っているものの58.8%と低かった。	・簡単な内容を2つに分け、接続詞に気を付けさせながら文を書かせるなどし、段落の意味を理解させたり、文章を分けると内容が伝えやすいことに気付くことができるように作文指導を行ったりする。
読むこと	平均正答率は市や県の平均と同等であった。 ○説明文の内容を読み取り、叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率は94.1%と高かった。 ●物語の内容を読み取り、場面の様子について、叙述を基に捉える問題での正答率は17.6%と低かった。	・主人公の心情や行動を基に、場面を想像したり、気持ちの変化を捉えたりすることができるよう指導する。また、物語の場面を区切り、場面ごとの要約を行い大まかな内容を捉えられるようにする。